

家庭学習で基礎・基本育む

中学校

ICT機器を活用して「思考力・表現力」を高める授業の創造」に取り組み広島県三原市立幸崎中学校（屋敷光校長、生徒88人）。同校では生徒の思考力を高める「ノートづくり」を、表現力の向上では「話し合い活動」を大切にしている。また、学力を支える基礎・基本の定着では家庭学習を重視。その「手引き」を作成するなどしており、学校のアンケートでは「1時間30分以上している」と答える生徒も増えている。

同校の英語科では毎回授業で習ったことが一目で分かり、重要な部分は色を変えて「Do you like...」など簡単な日常会話をペア学習で行っている。既習内容の定着が目的で、グループ活動で互いに教え合

いながら全員が文法を理解できる集団を目指す形だ。その際、教師側で「教えることが得意な生徒」「支援が必要な生徒」などを基準に座席を決定。それがクラス全体のバランスを踏まえた学習集団づくりの工夫となっている。

また、同校の英語科では2種類のノートを作成する。1つは「授業ノート」で教師が板書したものをそのまま書き写すと

いうもの。授業で習ったことが一目で分かり、重要な部分は色を変えてポイントを書き足すようにしている。もう一つは「宿題（毎日）ノート」

で、その日に習ったこと、500円以内の注文をするというもので、小学校での食べ物を注文する活動を振り返った形だ。まずは電子黒板を使い、授業で扱う複数のハンバーガーを次々と画面に映し、その発音を繰り返し練習して単数と複数の概念も学習した。

この授業では主にペア学習でのコミュニケーション活動が中心で、「What do you want?」「I want...」などの買い物での生活への円滑な移行につな

会話のやりとりを中学生が小学生と一緒に練習した。中学生には正確な文法が求められる」と英語科の等岡美穂子教師。

中学生が小学生を指導する活動を取り入れたことで、学習内容をきちんと理解して「どう教えれば分かりやすいか」「どう表現すれば確実に小学生に伝わるか」を考えさせた。

「生徒の授業に対する意欲や思考力も高まり、教えることで分かりやすく相手に伝える表現力も身に付けることができ」と等岡教諭。今後は「小学校外国語活動の単元を見直し、中学校の学習内容と連携させたカリキュラム開発が課

広島・三原市立幸崎中

小学校と交流授業

児童に英語教える活動も

「毎日1時間を目標に」と話す。

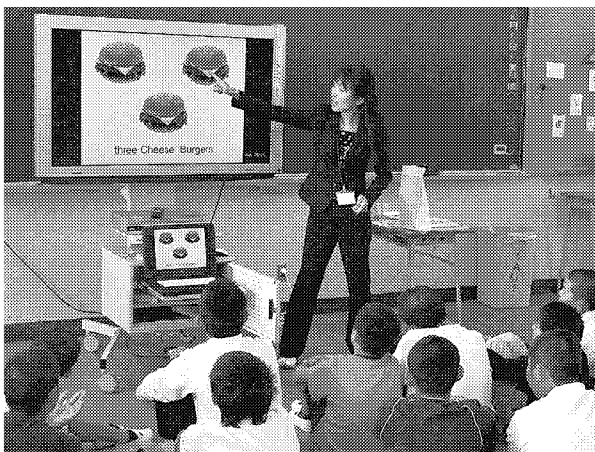
同校では家庭学習を充実させるため、「毎日1時間以上」を目標に取り組んでいる。思考力の充実が図られたものの、「基礎・基本の学習内容が定着していない」などの課題が見られたためだ。宿題は国語の「漢字帳」やその日学習したことをまとめる英語の「宿題（毎日）ノート」など生徒の負担を考慮し、こ

れまで学習したものの復習を中心とした。また、B4判1枚の「家庭学習の手引き」も作成。家庭学習の開始時間や学習場所を記入することができ、数学では「予習よりも復習に時間をかける」など、各教科における家庭学習のポイントなども掲載されている。

幸崎中 ☎0848・69・0004

日本教育新聞 2010年11月15日掲載

「ノートづくり」で思考力 「話し合い」で表現力向上



電子黒板にハンバーガーを映し、数表現と複数形について説明する笠岡教諭



"Here you are."—英語で買い物のやりとりをする子どもたち